

CAN学習のポスター発表に参加してのアンケート結果

H29. 10. 30

香川大学教育学部附属坂出小学校

I 手続き

- ・ H29.10.30 の午後、東組 3 4 名、西組 3 4 名が学級単位で担任の引率のもと中学校体育館へ移動。(前半参加クラスと後半参加クラスに分けた)
- ・ 各学級毎に、武道場にて中学校の大西教頭と生徒会代表者から簡単な説明を聞いた後、ポスター発表を自由に参観。帰校後、直後に以下のアンケートを実施



<中学生から CAN 学習について聞く>



<各ブースでの発表を聞く>

II アンケートの集計結果

1 中学生の発表を聞いて楽しかったですか

- ①とても楽しかった (62%, 44人) ②楽しかった (37%, 25人) 99%
- ③どちらかといえば楽しくなかった (1%, 1人) ④楽しくなかった (0) 1%

2 来年、中学校へ進学したとき一緒にしてみたいと感じた発表はありましたか

- ①あった (88%, 60人) ②なかった (12%, 8人)

①の理由

- ・興味あるものがあり、おもしろそう 25人
- ・調べたいことがたくさんあり、自分もしてみたい 17人
- ・ためになりそう、生活に役立ちそう 4人
- ・異学年3人で日常の疑問を深く掘り下げていくことが楽しそう 4人
- ・年を重ねて深く探究しているので、一緒に調べてみたい 3人
- ・どうやったら思い通りの調べができるか考えるのがおもしろそう 2人
- ・いろいろな知識が聞けてうれしい 2人
- ・よりよいものを生みだそうとしているところに興味を持った 1人
- ・自分で調べると知識が増える 1人
- ・未来に生きる人だと感じた 1人
- ・データや資料を集めて紙にまとめるのがおもしろそう 1人
- ・高カロリーが低カロリーになれば好きなものが食べられるので 1人
- ・動体視力は役に立ちそうだから 1人
- ・ユーチューブの再生回数に興味がある 1人
- ・ドラクエゲーム参考になった 1人
- ・ばば抜きカードと性格の関係がおもしろい 1人

- ・スイーツづくりに興味がある 1人
 - ・サッカーのドリブルがうまくなる方法に興味がある。 1人
- ②の理由
- ・生物関係の調べがしてみたい 1人
 - ・内容に具体性が無く調べた内容が伝わってこなかった 1人
 - ・決められないから 1人

3 今年度から6年生が中学生のCAN学習の発表を見るようになりました。来年度も続けて実施した方がよいと思いますか。

- ①ぜひした方がよい(82%, 56人) ②どちらかといえばした方がよい(18%, 12人)
 ③どちらかといえばしない方がよい(0%, 0人) ④やめた方がよい(0%, 0人)

肯定的回答 100%

肯定的回答の理由

- ・来年中学校に進学したときの自分が想像できる。見通しがもてるから。 26人
- ・小学生にも役立つ発表だから 12人
- ・CANについてくわしく知れるから 6人
- ・積極的に自分から取り組むことは楽しく、大切であることがわかるから 6人
- ・中学校進学への好奇心が高まるから。やってみたいことが見つかるから 6人
- ・発表を聞くことで生活の中の疑問を考えるきっかけになるから 5人
- ・発表をより多くの人に広げることができるから 5人
- ・異学年での協働の長所を知ることができるから 3人
- ・中学生のがんばりや楽しさが見られるから 3人
- ・中学生と小学生の交流になるから 1人

Ⅲ 考察

- CANの発表を聞くことは100%の児童が肯定的である。その理由として、進学したときに役立つ。進学への楽しみが増える。小学生にも興味のある役立つ内容。等であり、残りの小学校生活期間の充実、進学後の不安解消に効果的だと考えられる。小6の後半の学級経営、学習指導、生活指導に関連させ、小中連携および連絡進学のよさを整理、発信していきたい。
- また、生活の中の疑問を考えるきっかけとなる・発表をより多くの人に広げることができる・異学年協働の長所がわかる・中学生のがんばりや楽しさが見られる等、CAN学習自体を肯定的に感じ取っている児童も多く、小学生の反応を中学生に伝えることにより、更なるCAN学習の充実が期待できる。また、中学校の研究成果のエビデンスとしても活用できる。
- 若干名ではあるが、自分の興味に合う部分がなかったり、発表が十分捉えられなかったりして、楽しくなかったと回答している児童も存在する。原因は何か記述だけでは判断できないが、認知特性、認知のアンバランスさ、集団活動の苦手さ等が影響しているのかも知れない。小中連携も、発達支援の視点からこれまで以上に個の理解に努めバトンをつないでいけるようにしたい。また、35名の公立小学校からの入学者にとっても、CAN学習を含めた新しい中学校生活にスムーズになじめるよう、附属小中連携の成果が転移活用できるとよい。